

キャベツ栽培のポイント

< 6つの栽培ポイント >

- 1 品種選定がとても重要。** キャベツは耐暑性・耐寒性、高温期や低温期での結球のしやすさ、肥大速度、抽だいの条件等、品種による生理・生態的特性の差が大きいため、**作型、作付する地域の気象等の自然条件や土質等**に合った**適切な品種**を選定しましょう！
- 2 連作により病害虫が増加。** 土壌伝染性病害やセンチュウの発生が増加しないよう、**緑肥の作付や輪作に努めましょう！**
- 3 地力の維持・向上が重要。** 定期的な土壌診断を行い、**地域・栽培品種**に合わせた**適切な施肥設計**を行いましょ！
- 4 過湿に弱い作物。** 水はけの悪いほ場では、排水溝の整備や高うね等、**排水対策**を徹底しましょう！
- 5 適期作業で品質・収量の向上。** 作業の遅れは、結球不良や抽だい、病害虫等の発生にもつな갑니다。播種・定植・収穫等について、**適期の作業に努めましょ！**
- 6 虫害や病害は品質・収量の低下原因。** 球の内部に害虫が入り込まないように、**結球開始時期までの初期防除**を徹底しましょう！

キャベツの作型の例

	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
夏まき 秋冬どり (千葉県)	→						●	●					夏まき早生種
夏まき 秋冬どり (愛知県)							●	●					耐寒性、低温肥大性、晩抽性に優れ、裂球が遅く、アントシアニンの発生が少ない品種
秋まき春どり (千葉県)			●										低温感応性の低い品種
春まき夏どり (岩手県)													耐暑性に優れた品種

キャベツ栽培に適する自然条件

発芽適温	花芽分化	好適土壌pH
15～30℃	0～14℃で誘導	6.0～7.0

ここに紹介します留意事項は、キャベツを栽培する際に特に留意すべき内容を列記したものです。また、栽培方法によっては該当しない内容も含まれます。

実際の栽培にあたっては、地域のJAや普及指導センター等に問合せいただき、ほ場条件やキャベツ品種に適した施肥設計、栽培方法等に基づき栽培してください。

ほ場準備

<ほ場の選定・排水対策>

- ・ キャベツは、土質に対する適応範囲は広いですが、耕土の深い、排水良好な砂質壤土～粘質壤土で、通気性に優れる土壌が適しています。
- ・ 連作は、土壌伝染性病害やセンチュウの発生を増加させます。
- ・ 水田転作畑は、排水対策や鋤床破碎をしなかったり、不良な土壌を客土した場合には極端な生育不良を招くことがありますので、対策の徹底が必要です。
- ・ 水はけの悪いほ場では、作業の遅れや湿害の発生が起こりやすくなります。

対策のポイント

- ✓ 有機質に富む排水の良好なほ場を選定。
- ✓ 連作障害による土壌伝染性病害等を避けるために、**輪作等に努める**。
- ✓ 水はけの悪いほ場では、弾丸暗渠や畝間明渠、額縁明渠による排水溝の整備や高うね等の**排水対策を実施**。

<土づくり>

- ・ 堆肥の投入や緑肥の作付により、地力の低下を防ぐことが重要です。
- ・ 土壌がpH7.0以上又は強い酸性になると、生育に必要な微量元素が土壌中で溶解しにくくなり、欠乏につながります。
- ・ 結球が始まる頃から養分吸収が盛んになり、外葉形成初期からの十分な生育を確保できる施肥設計が必要です。

対策のポイント

- ✓ **土壌診断を行った上で、堆肥の投入や緑肥の作付を実施**。排水性の改善や腐植の増加、保肥力の増大等を図り、時間をかけて集積効果を高め、地力の維持・向上を図る。
- ✓ 土壌が酸性の地域では、石灰類でpH6.0～7.0前後に矯正。
- ✓ 施肥については、土壌診断の結果や地域、栽培品種に合わせた**適切な施肥設計を実施**。

<品種の選定>

- ・ キャベツは、全国の産地でそれぞれの気候や土質に合った品種により周年栽培されています。品種ごとに特性や作型が異なるため、地域や自然条件を踏まえ、適切な品種を選定する必要があります。

播種・育苗

播種・育苗 (続き)

- 例えば、
 - ① 暑い時期・地域において結球する作型
→ 高温多湿期による生理障害や病気になるため、結球性に優れ、裂球が遅く、腐敗しにくい品種
 - ② 生育初期が厳冬期となる作型
→ 寒害や裂球の心配があるため、耐寒性に優れ、裂球しにくい品種
 - ③ 春どり栽培のような冬から春にかけて生育する作型
→ 一定程度生育した苗が低温にあうと花芽分化し、高温長日の条件により抽だいが発生します。低温感応性の低い特性を持つ等の抽だいの発生が起こりにくい品種
を選ぶ必要があります。

対策のポイント

- ✓ キャベツは、耐暑性・耐寒性、高温期や低温期での結球のしやすさ、肥大速度等、品種による生理・生態的特性の差が大きいため、**品種特性や地域の自然条件を踏まえ、適切な品種を選定。**

<播種>

- 播種時期・育苗期間は、品種特性や育苗・定植方法に応じて、定植期を基準として決定します。
- 作業の遅れや早まきは、結球不良や抽だいの原因となります。

対策のポイント

- ✓ **品種特性・作業方法に応じて、適期に播種。**

<育苗管理>

- 本葉3枚くらいまでは、生育が遅く障害を受けやすいため、管理に注意が必要です。
- 高温期は、軟弱徒長や病害虫の発生が増加します。

対策のポイント

- ✓ 育苗期は、表土が乾いたら朝十分にかん水を行う。
- ✓ 低温期は、品種や発芽時期等によっては、播種直後にべたがけ等で発芽促進。
- ✓ 高温期は、軟弱徒長や病害虫を防ぐため、寒冷紗等でトンネル被覆。

<定植>

- 定植時期は、品種特性や作業方法（定植機の仕様等）に応じて、収穫期を基準として決定します。
- 作業の遅れや早植えは、生育不良等の原因となります。
- 深植えにすると二次根が発生して生育が遅れます。

対策のポイント

- ✓ 品種特性・作業方法に応じて、**適期に定植。**
- ✓ うね幅、株間等は、品種や地域によって**適切な方法で定植。**
- ✓ **水はけの悪いほ場では高うねに定植。**
- ✓ 葉の付け根が埋まらない程度に定植。

定植

本圃管理

<中耕・土寄せ>

- ・ 中耕が遅れると、外葉を折ったり細根を切り、生育遅れや軟腐病の原因となります。
- ・ 下部が風で振り動かされると、病害の発生を招きます。
- ・ 外葉が大きく葉色が濃い場合や遅い追肥は、施肥効果が低下するだけでなく腐敗病等の発生を招きます。

対策のポイント

- ✓ 栽培時期、品種、土壌条件に応じて、定植後半月～1か月後に**中耕・土寄せを実施**。除草や苗の曲がりを防止し、株を安定させる。
- ✓ キャベツは**初期生育が重要**。必要に応じ中耕・土寄せと同時に追肥を実施し、外葉をしっかりと育てる。ただし、遅い追肥は避ける。

<病害虫防除・本圃管理>

- ・ 生育中の球への虫害や病害は、収量・品質を大きく低下させます。
- ・ 降雨が多いと、軟腐病、黒腐病、根こぶ病等が発生しやすくなります。
- ・ 肥大期や結球期に土壌が過湿になると、裂球や病害の発生につながります。
- ・ 反対に、乾燥すると小玉化します。

対策のポイント

- ✓ 球の内部に害虫が入り込まないように、**結球開始時期までの初期防除を徹底**。
- ✓ 梅雨等降雨が多い時期は、排水対策が重要。

<収穫>

- ・ 収穫適期が遅れると、球は成長し続け内側からの圧力に耐えられなくなって裂球が発生します。裂球は、葉数・葉重増加が盛んな春期や秋期の収穫で発生しやすくなります。また、早生種では、降雨により裂球しやすくなります。
- ・ 秋冬どりでは、寒さにあたるとアントシアニンにより、外葉が紫色になります。

対策のポイント

- ✓ 完全に結球したものを1～2枚の外葉を付けて**適期に収穫**。

収穫

省力化 技術

<機械化一貫体系の導入>

- ・ 機械化一貫体系を導入することにより、従来の作業体系と比べて労働時間を大幅に削減できます。

【全自動播種プラント】



育苗センターで播種・育苗を効率的に行う

【畝立同時施肥機】



耕耘と施肥の同時施行

【全自動移植機】



【乗用管理機】



省力的な防除作業の実施

【収穫機】

